

犬種と攻撃性

以下は犬種を攻撃性により分類したものです。一概には言えませんが飼育する時にはこの表を参考にして犬種を選ぶようにしましょう。特に犬を飼育した経験のない方は非常に低度あるいは低度に分類される犬種を選び、間違っても高度や非常に高度に分類される犬種を選ばないようにしてください。

攻撃性	犬種
非常に低度	バセット・ハウンド、ブラット・ハウンド、イングリッシュ・ブルドック、ノルウェジャン・エルクハウンド
低度	オーストラリアン・シェパード、ブリタニー・スパニエル、チェサピーク・ベイ・レトリバー、コリー、ジャーマン・ショートヘアード・ポインター、ゴールデン・リトリバー、キースホンド、ラブラドル・リトリバー、ニューファンドランド、ビズラ
中等度	ビーグル、ビション・フリーゼ、ボストン・テリア、コッカー・スパニエル、イングリッシュ・スプリングー・スパニエル、アイリッシュ・セッター、ラサ・アプソ、マルチーズ、ペキニーズ、ポメラニアン、プードル(全サイズ)、パグ、シェトランド・シープドック、シー・ズー、ワイマラナー、ウエリッシュ・コーギー、ヨークシャー・テリア
高度	アフガン・ハウンド、アラスカン・マラミュート、ボクサー、チャウ・チャウ、ダルメシアン、グレート・デン、セント・バーナード、サモエド、シベリアン・ハスキー
非常に高度	エアデール・テリア、秋田犬、ケアン・テリア、チワワ、ダックスフンド、ドーベルマン・ピンシャー、フォックス・テリア、ジャーマン・シェパード、ロットワイラー、シュナウザー(ミニチュア)、スコッチ・テリア、シルキー・テリア、ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア

出典 ; BL, Hart LA: Selecting pet dogs on the basis of cluster analysis of breed profiles and gender. J Am Vet med Assoc 186:1181-1185,1985

飼育環境と攻撃性には大きな関係があります。特に幼齢期の社会適合化は攻撃性に大きく影響すると言われています。例えば、**生後3～12週齢の時期に周囲の人とほとんど接触しなければ人間への攻撃性が増す**可能性があります。また、**生後3～4週齢で親犬や兄弟姉妹から離された犬は、他の犬に対する攻撃性が増します。**

飼育者として幼齢期に服従訓練を行うことは最も重要な躰のうちの一つです。これができない、あるいは自信がない、方法が分らない方は絶対に攻撃性が高度、非常に高度に分類される犬種を飼育すべきではありません。お互いに不幸になるだけです。



このページは下記当院のインターネットホームページで24時間無料で取り出せます。また、ホームページには他にも様々な情報が掲載してありますので、ぜひご覧ください。



Copyright (C) 2001 Tatsuya Fukuyama DVM, AFP IKI ISLAND VETERINARY CLINIC.
Tel 09204-7-6767 Fax 09204-7-0350 e-mail: foffice@bronze.ocn.ne.jp
<http://www.ikikoku.com/pet.html>